

大阪市立  
自然科学  
博物館  
蔵書之印

VOL. 2

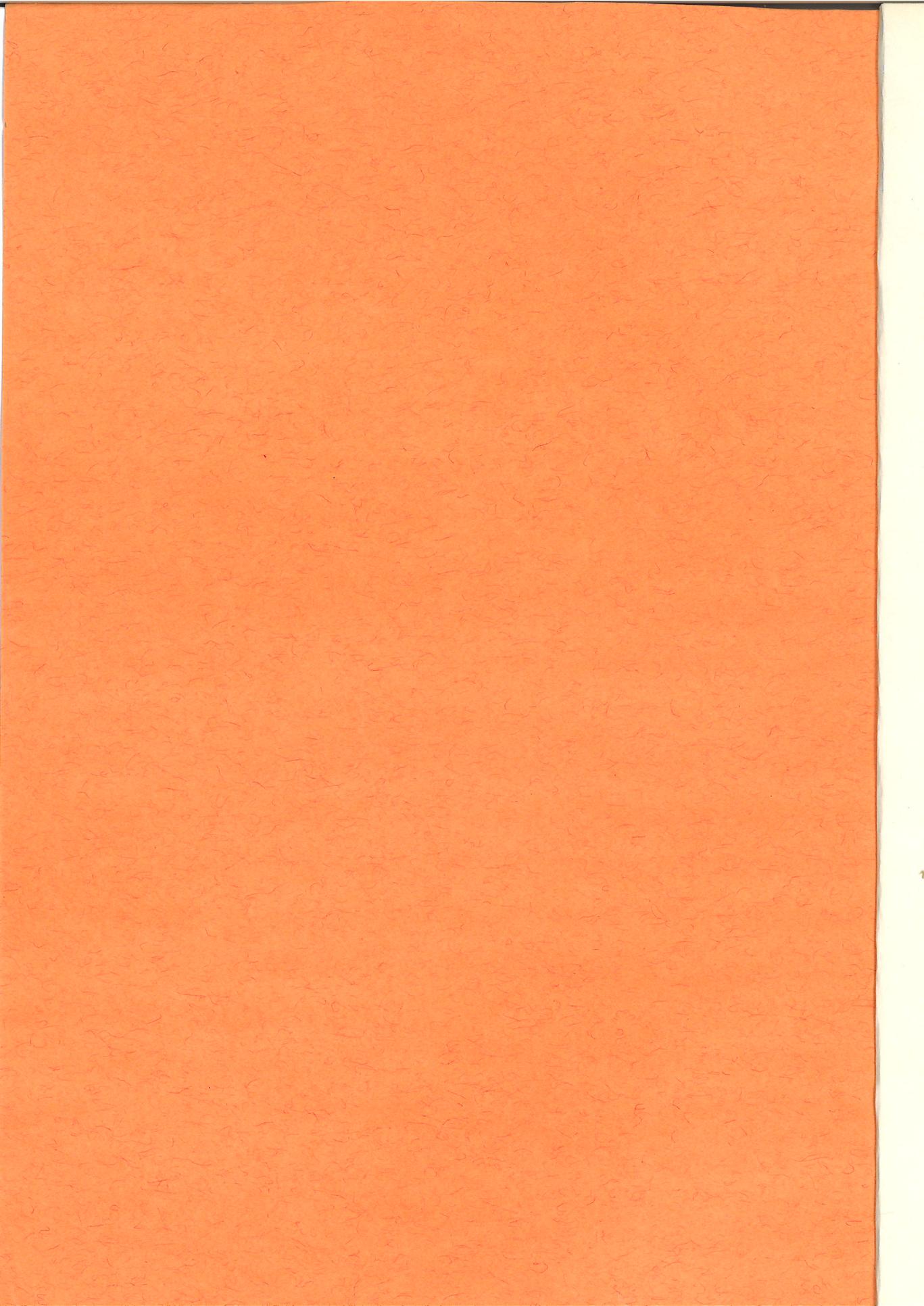
No. 2

December. 1971

---

BEETLES  
びいとるず  
大阪甲虫同好会

---



# 目 次

○ 灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について — 4 —

## V 調査資料の報告と解説

	計
○ 灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について — 4 —	2
V 調査資料の報告と解説	1
(38) テントウムシ科 .....	4
(39) テントウダマシ科 .....	05
(40) ヒメマキムシ科 .....	2
(41) コキノコムシ科 .....	7
(42) ゴミムシダマシ科 .....	7
(43) ハムシダマシ科 .....	19
(44) クチキムシ科 .....	1 1
(45) ナガクチキムシ科 .....	1 1
(46) ハナノミダマシ科 .....	1 1
(47) ハナノミ科 .....	1 1
(48) カミキリモドキ科 .....	1 5
(49) ツチハンミヨウ科 .....	1 5
(50) アリモドキ科 .....	1 5
(51) ニセクビボソムシ科 .....	1 5
(52) カミキリムシ科 .....	1 6
○ 日本のハネカクシ覚え書き — 1 — (林 靖 彦)	2 2
○ 新 入 会 員 .....	2 7
○ 連 絡 .....	2 9
○ 編 集 後 記 .....	3 0

V 調査資料の報告と解説

(38) テントウムシ科 Coccinellidae

種の同定は(1)(2)(3)(5)を宮武睦夫氏にお願い、他の4種は我々で行った。

1. *Scymnus* (*Pullus*) *hilaris* MOTSCHULSKY, コクロヒメテントウ
2. *Scymnus* (*Scymnus*) LEWIS, トビイロヒメテントウ
3. *Serangium japonicum* CHAPIN, クロツヤテントウ
4. *Harmonia axyridis* (PALLAS), テントウムシ
5. *Eocaria muiri* TIMBERLAKE, ムーアシロホシテントウ
6. *Propylea japonica* (THUNBERG), ヒメカメノコテントウ
7. *Neomysia nipponica* YUASA, ジュウロクホシテントウ
8. *Illeis koebelei* TIMBERLAKE, キイロテントウ

(39) テントウダマシ科 Endomychidae

この種は我々で同定した。

1. *Ancylopus melanocephalus* OLIVIER, ヨツボシテントウダマシ  
6月25日午後11時に飛来した1頭だけである。(野村)

(40) ヒメマキムシ科 Lathridiidae

種の同定は久松定成氏にお願いした。

1. *Stephostethus* sp.
2. *Melanophthalma* (*Corticarina*) *gibbosa* HERBST,  
ウスチャケシマキムシ
3. *Melanophthalma* (s.str.) *distinguenda* COMOLLI
4. *Cartodere constricta* HUMMEL

(41) コキノコムシ科 Mycetophagidae

種の同定は(1)を宮武睦夫氏、(2)を久松定成氏にお願いした。

1. *Mycetophagus antennatus* (REITTER), ヒゲブトコキノコムシ
2. *Typhea pallidula* REITTER, キイロコキノコムシ

## (38) テントウムシ科

	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1									1		1		2
2									1				1
3								3		1			4
4			2			5	24	40	24	1	5	4	105
5						1			1				2
6						4	3						7
7					3	2	1	1					7
8			1		23	12	21	12	7	17	20	6	119

## (39) テントウダマシ科

1	ヨツボシテントウダマシ							1					1
---	-------------	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	---

## (40) ヒメマキムシ科

1	<i>Stephostethus</i> sp.						1					2	3
2	ウスチャケシマキムシ		10		2	7	9	9	10	11	4	45	107
3	<i>M. distinguenda</i>					1							1
4	<i>C. constricta</i>		1					1	1				3

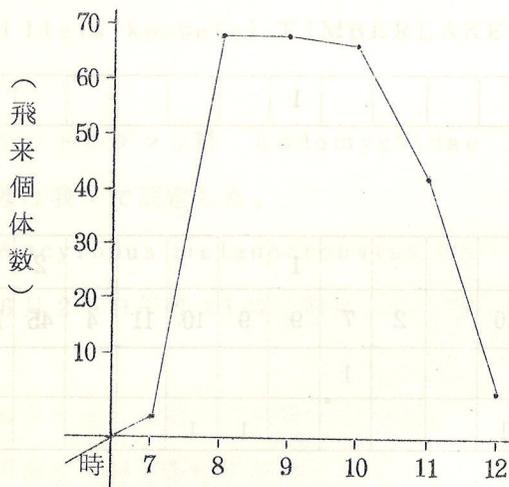
## (41) コキノコムシ科

1	ヒゲブトコキノコムシ				1	1	1			1			4
2	キイロコキノコムシ							1					1

テントウムシ科 飛来個体数の季節的变化と時間帯

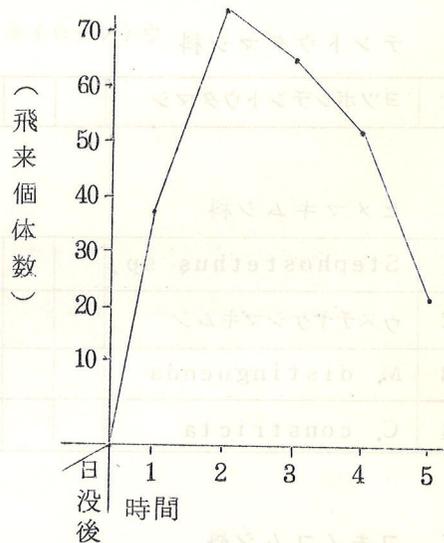
月日 時	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
8	0	0	2	0	6	6	6	24	4	6	10	4	68
9	0	0	0	0	4	11	23	9	9	5	4	3	68
10	—	0	1	0	7	5	13	16	11	4	7	2	66
11	—	0	0	—	9	2	7	7	7	4	5	0	41
12	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	3
計	0	0	3	0	26	24	49	56	34	19	26	10	247

テントウムシ科



飛来時刻と飛来個体数

テントウムシ科



日没時刻と飛来個体数

(考 察)

テントウムシ科の飛来は5月中旬に始まり、秋までみられ、7月中旬にピークがある。そして8種247個体の飛来がみられるが、その90%はキイロテントウとテントウムシで占められる。キイロテントウは5、6月と8月中旬に、テントウムシでは7月中旬にそれぞれ飛来数のピークがあり、両種の飛来は非常に長期間にわたるのに対して、他の6種は比較的短い期間しか飛来しない。

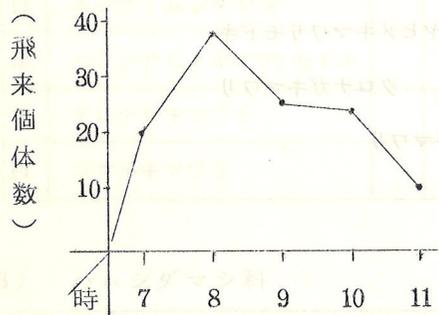
これらの飛来状況より、キイロテントウ以外の種では年1回の発生と考えられ

る。また飛来時刻をみると、日没後2~4時間に全体の80%が飛来していて、日没直後に飛来する個体数は他の甲虫にくらべて少ない。(野村)

ヒメマキムシ科 飛来個体数の季節的变化と時間帯

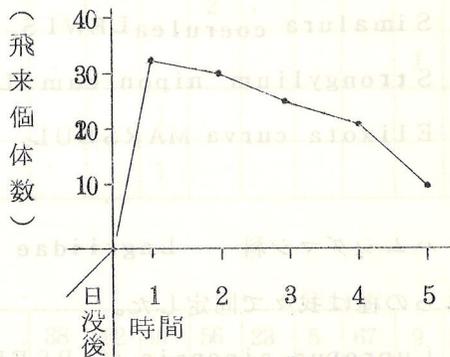
月日	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	0	2	0	0	0	0	1	0	10	1	6	20
8	0	0	5	0	2	1	3	5	6	1	2	12	37
9	0	0	1	0	0	1	5	2	1	0	1	14	25
10	—	0	2	0	0	2	2	2	3	0	0	12	23
11	—	0	1	—	0	4	0	0	1	0	0	3	9
計	0	0	11	0	2	8	10	10	11	11	4	47	114

ヒメマキムシ科



飛来時刻と飛来個体数

ヒメマキムシ科



日没時刻と飛来個体数

(考察)

ヒメマキムシ科は飛来個体数の94%がウスチャケシマキムシで、それ以外には3種7頭の飛来がみられるにすぎない。ウスチャケシマキムシの飛来は5月中旬から始まり、ほぼ一定数が8月まで続き、9月にピークになる。しかし、その後の飛来状況を調査していないので、発生の様子を推定することは難しい。また飛来時刻についてみると、日没後1~4時間の間はほぼ同数の飛来がみられる。

(野村)

(42) ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

これらの種は我々で同定し、4.は宮武陸夫氏にお願いした。

1. *Gonocephalum coriaceum* MOTSCHULSKY, コスナゴミムシダマシ
2. *Diaperis lewisi* BATES, モンキゴミムシダマシ
3. *Platydema recticorne* LEWIS, ツノボソキノコゴミムシダマシ
4. *Alphitophagus bifasciatus* SAY, フタオビツヤゴミムシダマシ
5. *Ceropria induta* WIEDEMANN, ナガニジゴミムシダマシ
6. *Uloma bonzica* MARSEUL, ヨッコブゴミムシダマシ
7. *Uloma excisa* GEBIEN, オオエグリゴミムシダマシ
8. *Uloma marseuli* NAKANE, エグリゴミムシダマシ
9. *Hypophloeus gentilis* LEWIS, アメイロホソゴミムシダマシ
10. *Toxicum tricornutum* WATERHOUSE, ミツノゴミムシダマシ
11. *Tetraphyllus lunuliger* MARSEUL, ニジゴミムシダマシ
12. *Simalura coerulea* LEWIS, ルリツヤヒメキマワリモドキ
13. *Strongylium niponicum* LEWIS, クロナガキマワリ
14. *Elixota curva* MARSEUL, コマルキマワリ

(43) ハムシダマシ科 Lagriidae

これらの種は我々で同定した。

1. *Lupropus sinensis* MARSEUL, ヒゲブトゴミムシダマシ
2. *Heterotarsus carinula* MARSEUL, スジコガシラゴミムシダマシ
3. *Lagria nigricollis* HOPE, ハムシダマシ
4. *Nemostira rufobrunnea* MARSEUL, ナガハムシダマシ

(42) ゴミムシダマシ科

		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	Vii 17	Vii 23	Viii 13	Viii 20	IX 10	計
1	コスナゴミムシダマシ							1						1
2	モンキゴミムシダマシ						11	5		4	1			21
3	ツノボソキノコゴミムシダマシ							2						2
4	フタオビツヤゴミムシダマシ											1		1
5	ナガニジゴミムシダマシ						2	2						4
6	ヨツコブゴミムシダマシ							1	7	10		1		19
7	オオエグリゴミムシダマシ								27	16				43
8	エグリゴミムシダマシ								7	4	1			12
9	アメイロホノゴミムシダマシ						1							1
10	ミツノゴミムシダマシ						1							1
11	ニジゴミムシダマシ								2					2
12	ルリツヤヒメキマワリモドキ												1	1
13	クロナガキマワリ							1						1
14	コマルキマワリ							1						1

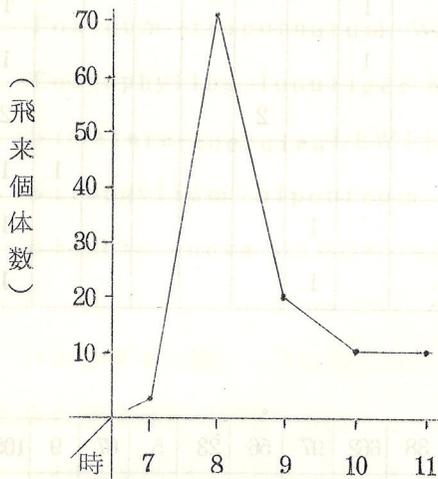
(43) ハムシダマシ科

1	ヒゲブトゴミムシダマシ		7	88		38	662	97	56	23	5	67	9	1052
2	スジコガシラゴミムシダマシ							2				1		3
3	ハムシダマシ								3					3
4	ナガハムシダマシ		143	7	8	32			1					191

ゴミムシダマシ科 飛来個体数(種類数)の季節的变化と時間帯

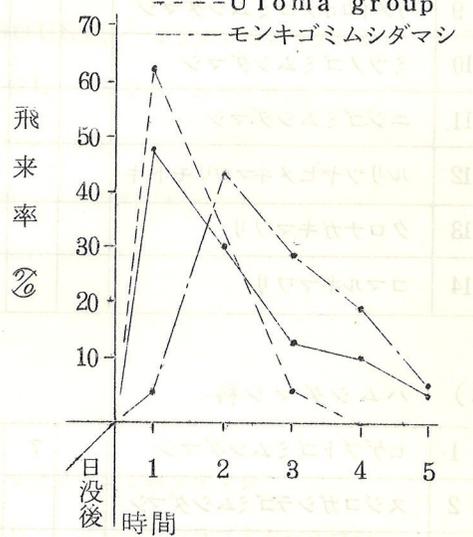
月日 時	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
8	0	0	0	0	0	2	1	36	29	1	0	0	69
9	0	0	0	0	0	11	3	5	0	0	0	0	19
10	—	0	0	0	0	1	4	2	2	1	0	0	10
11	—	0	0	—	0	1	5	0	3	0	0	0	9
計	0	0	0	0	0	15 (4)	13 (7)	43 (4)	34 (4)	2 (1)	2 (2)	1 (1)	110 (14)

ゴミムシダマシ科



飛来時刻と飛来個体数

ゴミムシダマシ科  
U loma group  
モンキゴミムシダマシ



日没時刻と飛来率

(考 察)

ゴミムシダマシ科の飛来は6月中旬に始まり7月下旬までみられ、その後の飛来数はわずかにすぎない。飛来個体数のピークは7月中・下旬だが、その90%以上はU loma group (エグリゴミムシダマシ・オオエグリゴミムシダマシ・ヨツコブゴミムシダマシ)で占められる。飛来種類数でのピークは6月下旬である(14種のうち7種がみられる)。また個々の種の出現期間をみると、モンキゴミムシダマシ以外の13種は非常に短期間しか飛来しない。

そしてそれらの飛来個体数のピークはひとつしかないことから、1年に1回だけ発生すると考えられる。さらに出現期によって、次の3型に大別してみた。

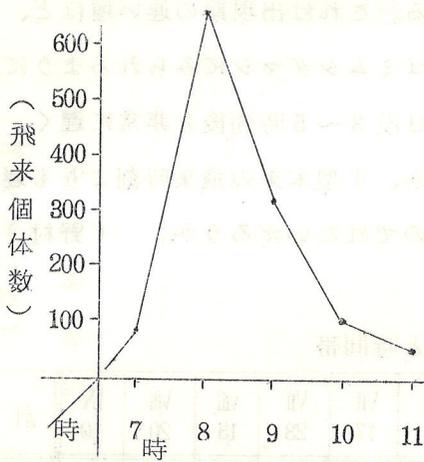
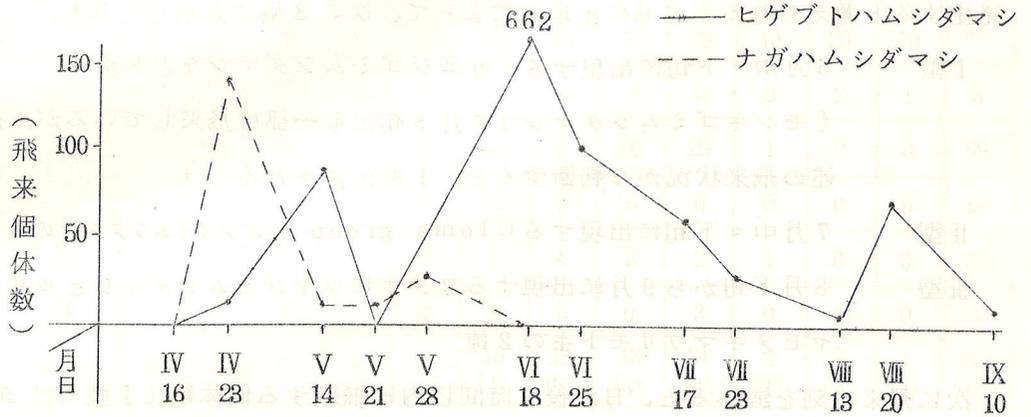
- I型 6月中。下旬に出現するナガニジゴミムシダマシなど8種  
(モンキゴミムシダマシは7月下旬にも一部は飛来しているが、後述の飛来状況から判断すると、I型に含まれる。)
- II型 7月中。下旬に出現するUloma group とニジゴミムシダマシの4種
- III型 8月下旬から9月に出現するフタオビツヤゴミムシダマシとルリツヤヒメキマワリモドキの2種

次に飛来時刻を調べると、日没後2時間以内に飛来する個体数はI型では50%未満であるのに対して、II型では95%に達する。そしてIII型では2頭だけしかないが、両個体とも日没直後に飛来している。これは出現期の違い種ほど、飛来時刻が早いことを示している。またモンキゴミムシダマシにみられるように、I型の種がII型の出現期に飛来する場合は、日没3~5時間後と非常に遅く、II型の飛来時刻とオーバーラップしないばかりか、I型本来の飛来時刻よりも遅い。これらは個々の種の生理的なものに起因するのではないだろうか。(野村)

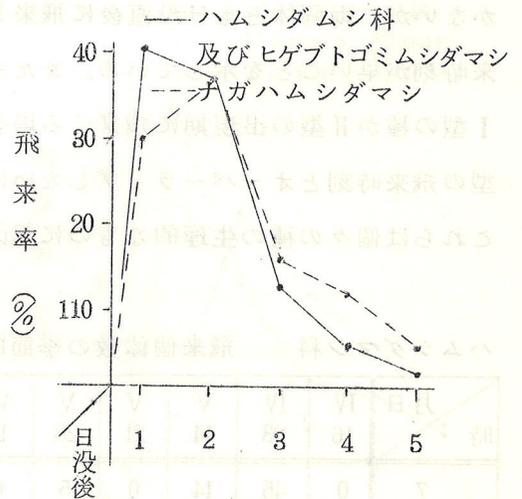
ハムシダマシ科 飛来個体数の季節的变化と時間帯

月日 時	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	45	14	0	5	0	0	0	0	0	15	6	85
8	0	59	60	3	42	382	42	45	12	3	37	1	686
9	0	21	16	5	7	199	39	5	2	2	10	1	307
10	—	19	4	0	8	50	15	5	6	0	4	1	112
11	—	6	1	—	8	31	3	5	3	0	2	0	59
計	0	150	95	8	70	662	99	60	23	5	68	9	1249

ハムシダマシ科の出現期



飛来時刻と飛来個体数



日没時刻と飛来率

(考察)

ハムシダマシ科の飛来は4種で1249頭であるが、その84%はヒゲプトゴミムシダマシ、15%はナガハムシダマシで占められる。そこでこの2種について調べると、ヒゲプトゴミムシダマシは4月下旬から秋までの長期間にわたり飛来し、5月中旬と8月下旬に小さなピークがあり、6月中旬に大きなピークがみられる。これからヒゲプトゴミムシダマシは1年に2~3回発生するものと考えられる。これに対してナガハムシダマシは4月下旬から5月下旬までの短期間しか飛来しないことから年1回発生するものと考えられる。(前記以外で飛来したのは7月17日に一頭あるのみ)

次に飛来時間をみると、両種とも日没後2時間以内にその70~80%が飛来するが、ナガハムシダマシよりヒゲブトゴミムシダマシの方が少し早めに飛来している。

他の2種(スジコガシラゴミムシダマシ、ハムシダマシ)は飛来数が少ないので考察は難かしいが、そのほとんどが9時以後に飛来していることは前述の2種と相違している。(野村)

(44) クチキムシ科 Alleculidae

種の同定は芝田太一氏にお願いした。

1. *Allecula melanaria* MÄKLIN, クチキムシ
2. *Allecula tenuis* MARSEUL, ホソアカクチキムシ
3. *Isomira oculata* MARSEUL, フナガタクチキムシ

(45) ナガクチキムシ科 Melandryidae

種の同定は芝田太一氏にお願いした。

1. *Anisoxya ocularis* NOMURA et KATŌ オオメホソナガクチキムシ
2. *Serropalpus niponicus* LEWIS, キイロホソナガクチキムシ

(46) ハナノミダマシ科 Scaptiidae

種の同定は野村鎮氏にお願いした。

1. *Anaspis marseuli* CSIKI, クロフナガタハナノミ
2. *Pentaria ohkurai* NAKANE, オオクラフナガタハナノミ
3. *Ectasiocnemis shirozui* CHUJŌ, オオフナガタハナノミ
4. *Scaptia livens* MARSEUL, キイロハナノミダマシ

(47) ハナノミ科 Mordellidae

種の同定は野村鎮氏にお願いした。

1. *Mordellistena kirai* NOMURA, キラヒメハナノミ
2. *Falsomordellistena hananoi* NOMURA, ハナノヒメハナノミ

3. *Falsomordellina luteoloides* NOMURA, ナミアカヒメハナノミ

(44) クチキムシ科

		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1	クチキムシ			2										2
2	ホソアカクチキムシ						23	8						31
3	フナガタクチキムシ						4	7						11

(45) ナガクチキムシ科

1	オオメホソナガクチキムシ								1					1
2	キイロホソナガクチキムシ												1	1

(46) ハナノミダマシ科

1	クロフナガタハナノミ			4		2	3							9
2	オオクラフナガタハナノミ							2	17	5	3			27
3	オオフナガタハナノミ							2						2
4	キイロハナノミダマシ			1										1

(47) ハナノミ科

1	キラヒメハナノミ						1							1
2	ハナノヒメハナノミ							1						1
3	ナミアカヒメハナノミ										1			1

(48) カミキリモドキ科 Oedemeridae

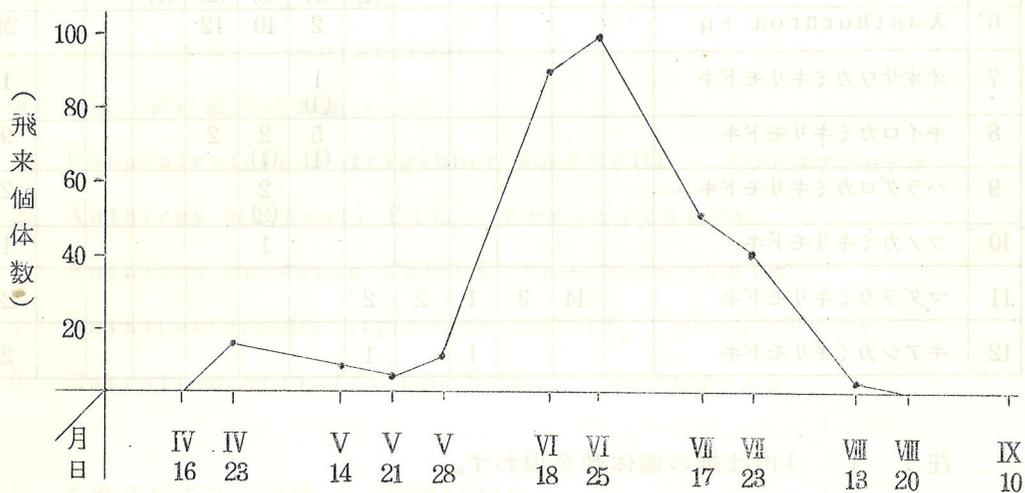
種の同定及び解説は林靖彦による。

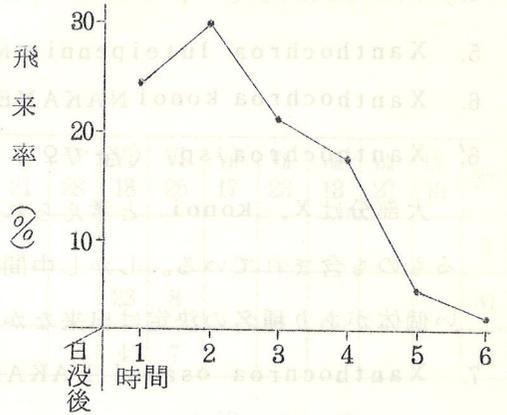
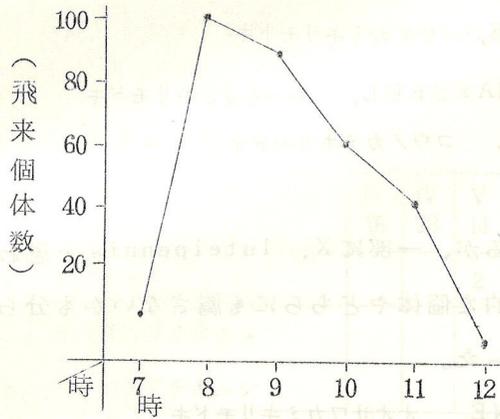
1. *Xanthochroa waterhousei* HAROLD, アオカミキリモドキ
2. *Xanthochroa katoi* KŌNO, カトウカミキリモドキ
3. *Xanthochroa caudata* KŌNO, シリナガカミキリモドキ

4. *Xanthochroa wadai* NAKANE, ワダカミキリモドキ
5. *Xanthochroa luteipennis* MARSEUL, キバネカミキリモドキ
6. *Xanthochroa konoi* NAKANE, コウノカミキリモドキ
- 6'. *Xanthochroa* sp. (全て♀)

大部分は *X. konoi* と考えられるが、一部に *X. luteipennis* と思われるものも含まれている。しかし中間的な個体やどちらにも属さないかも分らない個体があり種名の決定は出来なかった。

7. *Xanthochroa osawai* NAKANE, オオサワカミキリモドキ
8. *Xanthochroa hilleri* HAROLD, キイロカミキリモドキ
9. *Xanthochroa deformis* LEIS, ハラグロカミキリモドキ
10. *Xanthochroa antennata* LEWIS, ツノカミキリモドキ?
11. *Oncomerella venosa* LEWIS, マダラカミキリモドキ
12. *Oedemeronia manicata* LEWIS, キアシカミキリモドキ





飛来時刻と飛来個体数

日没時刻と飛来率

(48) カミキリモドキ科

		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1	アオカミキリモドキ			1 (1)		1	10	8						20
2	カトウカミキリモドキ					2 (2)	64 (3)	17 (1)	5	3				91
3	シリナガカミキリモドキ						8 (3)	40 (15)	24 (5)	19 (3)				91
4	ワダカミキリモドキ						1							1
5	キバネカミキリモドキ						1	15 (9)	1	1				18
6	コウノカミキリモドキ						1 (1)	8 (8)	4 (3)	3 (2)	1 (1)			17
6'	<i>Xanthochroa</i> sp							2	10	12				24
7	オオサワカミキリモドキ							1 (1)						1
8	キイロカミキリモドキ							5 (1)	2 (1)	2				9
9	ハラグロカミキリモドキ								2 (2)					2
10	ツノカミキリモドキ								1					1
11	マダラカミキリモドキ		14	3	1	2	2							22
12	キアシカミキリモドキ				1		1							2

注： ( ) 内は雄の個体数を現わす。

(考 察)

カミキリモドキ科の燈火への飛来は4月下旬から見られ、7月下旬でほぼ終わった。マダラカミキリモドキが最も早く出現し→*Xanthochroa*の上翅の青いグループ→同属の上翅の黄のグループの順に飛来が始まり、大部分の種類は飛来の初期にピークが見られ、以後、急減及至漸減する傾向から見て年1回の発生であろう。種類及び個体数の飛来のピークは6月中、下旬であったが7月においてもかなりの個体数が見られた。

*Xanthochroa*属に於て、コウノカミキリモドキとキバネカミキリモドキの2種は比較的♂が多かったが、他の種は♀が圧倒的に多かった。飛来時期と♀♂の関係を見ると、初期程♂の比率が高い傾向が見られた。

日没時間と飛来数の関係を見ると、日没後2時間後にピークがあるが、日没後1時間以内に既に25%以上の飛来があり、その後しだいに減少し、6時間後には殆ど飛来しなくなる。又各回ともほぼ同じ傾向を示すが、6月18日のみは日没後1時間内に最高値を示した。

(49) ツチハンミョウ科 Meloidae

この種は我々で同定した。

1. *Zonitis japonica* PIC, キイロゲンセイ

(50) アリモドキ科 Anthicidae

種の同定は野村鎮氏にお願いした。

1. *Pseudoleptaleus trigibber* MARSEUL, ミツヒダアリモドキ
2. *Anthicus marseuli* PIC, アカモンホソアリモドキ
3. *Anthicus cohaerus* LEWIS, ムナグロホソアリモドキ
4. *Anthicomorphus niponicus* LEWIS, クロチビアリモドキ
5. *Macratria serialis* MARSEUL, アカクビボソムシ

(51) ニセクビボソムシ科 Aderidae

種の同定は野村鎮氏にお願いした。

1. *Pseudolotelus japonicus* CHAMPION, ヤマトニセクビボソムシ
2. *Syzeton brunnidorsis* MARSEUL, セグロニセクビボソムシ

(49) ツチハンミヨウ科

		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1	キイロゲンセイ										2	1		3

(50) アリモドキ科

1	ミツヒダアリモドキ							2		1	1			4
2	アカモンホソアリモドキ							2	3					5
3	ムナグロホソアリモドキ								1					1
4	クロチビアリモドキ					1								1
5	アカクビボソムシ								1	1				2

(51) ニセクビボソムシ科

1	ヤマトニセクビボソムシ												1	1
2	セグロニセクビボソムシ						1							1

(52) カミキリムシ科 Cerambycidae

種の同定及び解説は野村英世による。

1. *Prionus insularis* MOTSCHULSKY, ノコギリカミキリ
2. *Prionus sejunctus* HAYASHI, ニセノコギリカミキリ
3. *Distenia gracilis* BLESSIG, ホソカミキリ
4. *Spondylis buprestoides* LINNE, クロカミキリ
5. *Cephalallus unicolor* GAHAN, ツシمامナクボカミキリ
6. *Xystrocera globosa* OLIVIER, アオスジカミキリ
7. *Margites fulvidus* PASCOE, キイロミヤマカミキリ
8. *Pseudaeolesthes chrysothrix* BATES, キマダラヤマカミキリ

9. *Stenygrinum quadrinotatum* BATES, ヨツボシカミキリ
10. *Stenodryas clavigera* BATES, アメイロカミキリ
11. *Ceresium holophaeum* BATES, ヨコヤマヒメカミキリ  
本種はすべて7月17日に飛来し、大阪市南部で灯火に飛来するテツイロヒメカミキリは全く見られなかった。
12. *Stenhomalus taiwanus* MATSUSHITA, タイワンメダカカミキリ  
岩湧山では本種と同属のカツコウメダカカミキリが5~6月ビーティングにより得ることが出来るが、本種ははじめてである。
13. *Mesosa longipennis* BATES, ナガゴマフカミキリ
14. *Sybra flavomaculata* BREUNING, キボシチビカミキリ  
本種は7月17日、日没直後に一頭だけ飛来したもので、関西では少ない種である。
15. *Pterolophia caudata* BATES, トガリシロオビサビカミキリ
16. *Pterolophia japonica* BREUNING, エゾサビカミキリ
17. *Pterolophia annulata* CHEVROLAT, ワモンサビカミキリ
18. *Uraecha bimaculata* THOMSON, ヤハズカミキリ
19. *Xenicotela pardalina* BATES, チャボヒゲナガカミキリ
20. *Acalolepta fraudatorix* BATES, ビロウドカミキリ
21. *Sophronica obrioides* BATES, イボタサビカミキリ
22. *Acanthocinus griseus* FABRICIUS, ヒゲナガモモフトカミキリ
23. *Leiopus stillatus* BATES, ゴマダラモモフトカミキリ
24. *Exocentrus galloisi* MATSUSHITA, ガロアケシカミキリ
25. *Exocentrus lineatus* BATES, アトモンマルケシカミキリ
26. *Eutetrappa ocelota* BATES, ヤツメカミキリ
27. *Oberea japonica* THUNBERG, リンゴカミキリ
28. *Epiglenea comes* BATES, ヨツキボシカミキリ

## (52) カミキリムシ科

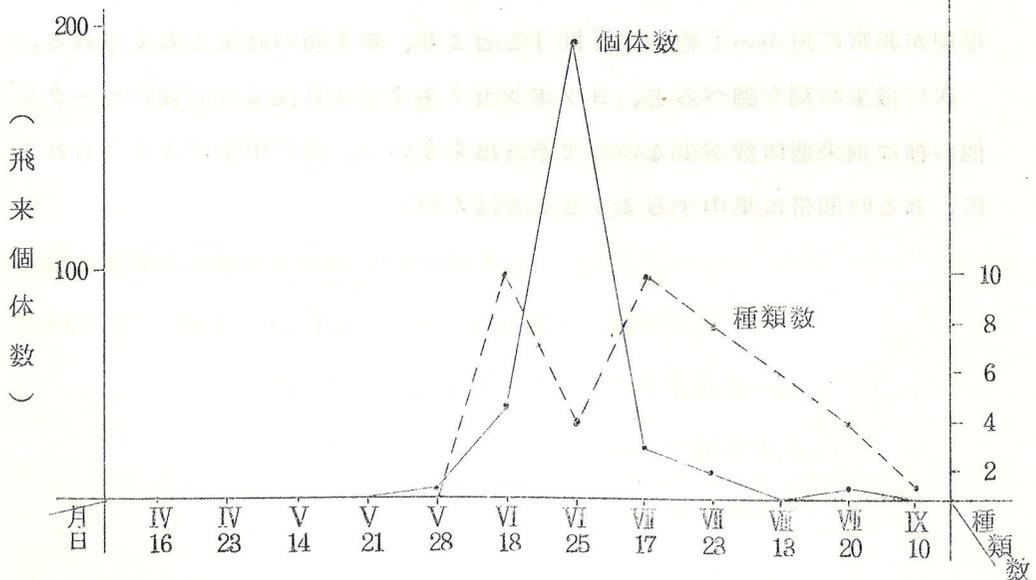
		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1	ノコギリカミキリ								2	3		3		8
2	ニセノコギリカミキリ												1	1
3	ホソカミキリ									1		1		2
4	クロカミキリ									1				1
5	ツシمامナクボカミキリ							2	2					4
6	アオスジカミキリ						1		2	1				4
7	キイロミヤマカミキリ						5							5
8	キマダラヤマカミキリ				1									1
9	ヨツボシカミキリ						18	187	5					210
10	アメイロカミキリ						6							6
11	ヨコヤマヒメカミキリ								3					3
12	タイワンメダカカミキリ										1			1
13	ナガゴマフカミキリ											1		1
14	キボシチビカミキリ								1					1
15	トガリシロヒサビカミキリ									1				1
16	エゾサビカミキリ						1	1						2
17	ワモンサビカミキリ								1					1
18	ヤハズカミキリ									1				1
19	チヤボヒゲナガカミキリ						1							1
20	ビロウドカミキリ								1	2		1		4
21	イボタサビカミキリ						1							1
22	ヒゲナガモモブトカミキリ								1					1
23	ゴマダラモモブトカミキリ						1							1
24	ガロアケシカミキリ							1						1
25	アトモンマルケシカミキリ								1					1
26	ヤツメカミキリ						1							1

		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
27	リンゴカミキリ									1				1
28	ヨツキボシカミキリ						1							1

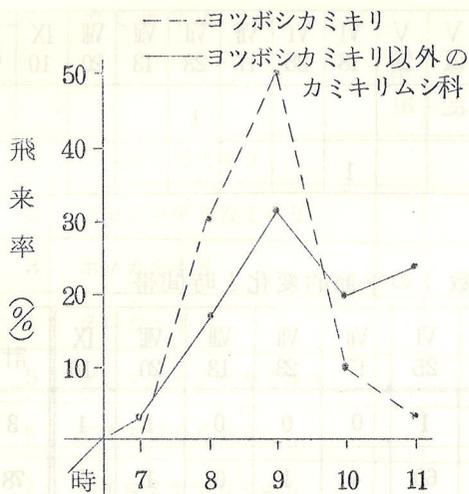
カミキリムシ科 飛来個体数（種類数）の季節的变化と時間帯

時	月日	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3
8		0	0	0	0	0	12	60	4	1	0	1	0	78
9		0	0	0	0	1	16	98	5	5	1	2	0	128
10		—	0	0	0	0	2	24	7	1	0	2	0	36
11		—	0	0	—	0	6	8	3	3	0	0	0	20
12		—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1
計		0	0	0	0	1 (1)	36 (10)	191 (4)	19 (10)	11 (8)	1 (1)	6 (4)	1 (1)	266 (28)

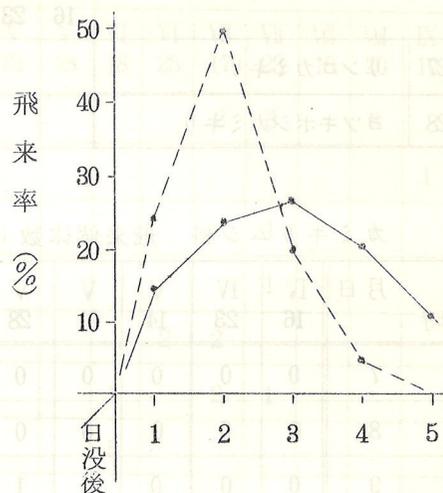
( )内は種類数



カミキリムシ科の出現期



飛来時刻と飛来率



日没時刻と飛来率

(考 察)

カミキリムシ科の飛来は5月下旬のキマダラヤマカミキリに始まり、9月のニセノコギリカミキリまで、28種266個体と種類数が多いわりに、個体数は少ない。しかも総飛来個体数の80%(210頭)を占めるヨツボシカミキリ以外には10頭以上飛来した種はない。また飛来種類数のピークは6月中旬と7月中旬。下旬にみられるが、両ピークにまたがって出現する種はなく、いずれの種も出現期が非常に短い(約1ヶ月間)ことより、年1回の発生と考えられる。

次に飛来時刻を調べると、ヨツボシカミキリでは日没2時間後にピークがある。他の種は飛来個体数が少ないので断言出来ないが、他の甲虫によくみられるように、ある時間帯に集中するようなことはない。

お　　わ　　び

本号で灯火に飛来した岩湧山の甲虫も第4報になりますが、原稿の書式等が悪く種の同定者と解説者が混乱し、同定をしてくださった方々にいろいろとごめいわくをかけ申しわけありません。ついでにはおわびかたがたこゝに次のとおり訂正させていただきます。

(1) 下記の文章の末尾に(野村)をいれる。

Vol. 1	No. 2	P. 9	下 5行目	酷似する。
Vol. 2	No. 1	P. 2	上 6行目	一頭飛来した。
		P. 4	上 3行目	決っていない。
		P. 8	上 4行目	一頭だけである。
			下 10行目	次第である。
			下 7行目	決っていない。
			下 3行目	飛来している。
	P. 9	上 2行目	飛来している。	
		上 11行目	飛来している。	
	P. 12	下 11行目	1頭だけである。	
		下 1行目	飛来している。	
	P. 18	上 4行目	1頭だけである。	
		上 8行目	飛来しただけである。	
		下 1行目	飛来している。	

(2) 下記の文章の末尾に(久松)をいれる。

Vol. 2	No. 1	P. 12	下 3行目	避けた。
		P. 13	上 10行目	かもしれない。
		P. 15	下 12行目	珍しい種である。
			下 8行目	稀な種である。

林 靖 彦

邦産ハネカクシ科甲虫は記録された種類だけでも854種に及んでいる。しかしこれらの多くは同定が困難であるばかりでなく、分布、生態、形態等に関する報告が極めて少ない。そこで筆者は手許にある標本を中心に邦産ハネカクシの採集記録、生態形態学的知見やその他参考事項を日本のハネカクシ相解明の資料の一端として記録しておきたい。

稿を進めるに当って常日頃標本、文献、研究活動等あらゆる面に多大のご援助を賜わっている芝田太一氏並びに沢田高平氏、同好の士伊藤建夫氏を始め貴重な標本を快よくご提供下さった方々に心から感謝する。

注： T. Lは日本原産種の模式産地を示す。

採集者は採集記録最後のカッコ内に入れた。

#### Pinophilus 属 (クビブトハネカクシ属)

日本から下記の4種類が知られているが、その中で上唇前縁の中央が巾広く深く湾入し雌雄差の明らかな *P. javanus* 及び *P. punctatissimus* が1つのグループを、他の2種は(後記する特徴はあるが)各々別のグループを形成する。雄交尾器の形態は各グループによって別属かと思われる程異なっている。

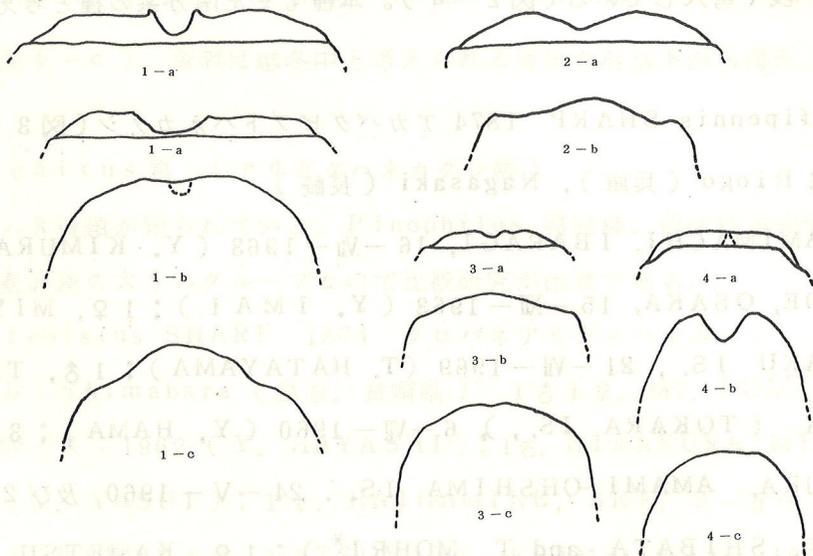
(1) *P. javanus* ERICHSON 1839 クロクビブトハネカクシ(図1)

1♂, SASUNA, TSUSHIMA IS., 31-VII-1967 (S. NISHINA)

: 1♀, NENBUTSUZAKA, ditto, 14-IX-1966 (N. OHTANI)

分布： 本州，九州，対馬(新記録)；中国，スダ諸島，インド，セイロン  
セイロンから東南アジアを経て日本まで分布しているようである。対馬産の2個体では上唇前縁の中央が大きく湾入している。その湾入部の形をくらべると(図1-a)のようにこの2個体の間にも著しい差がある。雄の第8腹板後縁は中央に於いて小さく切断状で、その中央付近に小さい圧痕を有する(図1-b)。雌では雄

のそれよりやや長く後方にのび、その先端は丸くなっている(図1-c)



1. *Pinophilus javanus* ERICHSON

2. *Pinophilus punctatissimus* SHARP

3. *Pinophilus rufipennis* SHARP

4. *Pinophilus lewisius* SHARP

a. 上唇前縁    b. 雄第8腹板後縁    c. 雄第8腹板後縁

第1図. *Pinophilus* 属の上唇と第8腹板

(2) *P. punctatissimus* SHARP 1889 (図2)

T. L : Hitoyoshi (人吉, 熊本県), Ogura (小椋池, 京都府)

1 ♀, AMBO, YAKU IS., 26, -VII-1969 (T. HATAYAMA)

分布: 本州, 九州, 屋久島 (新記録); 中国

本種は原記載以降本邦から全く記録がないように思われる。前種に非常によく似ているが、頭部上面にしわ状の小点刻を密布して光沢を欠くことにより容易に区別出来る。雌の第8腹板後縁は両外角付近でわずかに彎入し、中央部が巾広く後方弓形に張出している (図2-c)。雄は知られていない。本種の上 前縁は前種より巾広く、浅く彎入している (図2-a)。本種もまた南方系の種と考えられる

(3) *P. rufipennis* SHARP 1874 アカバクビブトハネカクシ (図3)

T. L : Hiogo (兵庫), Nagasaki (長崎)

1 ♂, AMIMACHI, IBARAGI, 16-VII-1963 (Y. KIMURA); 1

SUMINOE, OSAKA, 15-XII-1963 (Y. IMAI); 1 ♀, MIYANO-

URA, YAKU IS., 21-VII-1969 (T. HATAYAMA); 1 ♂, TAKAR-

AJIMA (TOKARA IS., ), 6-VII-1960 (Y. HAMA); 3 ♂♂,

SHIMMURA, AMAMI-OHSHIMA IS., 24-V-1960 及び 26-III-

1954 (T. SHIBATA and T. MOHRI\*); 1 ♀, KAMETSU, TOK-

UNOSHIMA IS., 27-III-1966 (H. NOMURA); 1 Ex., SONAE,

YONAKUNI IS., 22-VII-1964 (T. ITO)

分布: 本州, 佐渡ヶ島, 九州, (以下の諸島は新記録) 屋久島, 宝島, 奄美  
島, 徳之島, 与那国島; 中国

産地による個体変異差は殆どないように思われる。上唇前縁は中央で浅く小さく彎入している (図3-a)。外部形態から雌雄の判別は困難であるが次の諸点で区別出来る。雄の第8腹板は略一様な弧を描いて後へ伸びる (図3-b) のに対し雌のそれは両後外角付近でわずかに弯曲しており、雄のものより長く後へ伸びる (図3-c)。さらに筆者の検したかぎりでは、雄の第8背板は一様に赤いのに

して、雌のそれは後縁近くに暗色の横紋を有している。採集記録から見て成虫越冬するようである。

(4) *P. lewisius* SHARP 1874 ルイスクビプトハネカクシ(図4)

T. L: Mitzuyama, Nagasaki (長崎) 1♀, MT. KAMIJI, MIE, 10-XII-1967 (Y. HAYASHI); 1♂1♀, KOSUGIDANI, YAKU IS., 13及び14-VII-1957 (Y. KUZUGAMI)

分布: 本州, 伊豆・御蔵島, 九州, 屋久島(新記録); 台湾

本種の上唇前縁は弱い弓形で中央でも弯入しない(図4-a)。第8腹板は、雄では後縁中央に三角形の大きくない切れ込みがあり(図4-b)、雌は単純で丸くなる(図4-c)。筆者は越冬中と考えられる個体を落葉下から得た。

*Oedichirus* 属 (アリガタハネカクシ属)

本邦から3種類が知られている。*Pinophilus* 属同様、個体数が非常に少ない上に、個体変異差の大きいグループなので比較研究が困難である。

(1) *O. lewisius* SHARP 1874 クロバネアリガタハネカクシ

T. L: Shimabara (島原, 長崎県) 1♂1♀, MT. NODA, ISHIKAWA, 24-X-1962 (Y. HAYASHI); 1♂, HIRAKURA, MIE, 25-VIII-1966 (M. YASUI); 1♀, HAIGAMINE, AKI, 9-II-1936 (T. ISHIHARA\*); 1♀, MATSUYAMA, EHIME, 9-XII-1954 (K. MORIKAWA\*); 1♂1♀, NAGATA, YAKU IS., 7-IV-1965 (M. YASUI); 1♀, MIYANOURA, ditto, 29-VII-1966 (H. NOMURA)

分布: 本州, 四国(新記録), 九州, 屋久島(新記録)

本属中最も多く採集され、分布も関東地方にまで達している。点刻の個体変異は著しく、極端なものは別種かと思われる程であるが、雄の2次性徴には大差がない。屋久島産の個体は全体にひ弱く、宮ノ浦産のものでは上翅会合部後縁付近に不鮮明な赤紋を認める。また永田産の個体は上翅の点刻も密で、腹部の点刻の乱れも少ないが、雄の2次性徴は本州のものによく似ている。採集記録から見て成虫越冬するものであろう。水辺付近の比較的乾燥した砂質上の叢間に見られる。

(2) *O. idae* SHARP 1874

T. L : Mitsuyama, Nagasaki (長崎)

♂, RIV. YAMATO, OSAKA, III-1963 (Y. IMAI); 3♀♀, 29及びKAN  
TSU, TOKUNOSHIMA 27-III-1966 IS., 27 and 29-III-1966 (T. ITO

分布： 本州(新記録), 九州, 徳之島(新記録)

原記載以後全く記録がないようであるが、前種に酷似している為に混同され  
た可能性がある。SHARPは1889年の論文に於て別種であることを強調して  
が、決め手になるポイントは充分明らかにされていないように思われる。*O.*  
*wisius*からは以下の点で区別出来るのではないだろうか。

……上翅の点刻は全体にやや小さく、鞘翅後縁付近(大体1/6くらい)  
いて、大体一様に、より密に散布されている。腹節の点刻はより小さく、その  
あまり不揃いでなく、配列の乱れも少ない。腹節基部の点刻列の部分はやや光  
乏しい。雄第8腹板後縁の巾広い深い切れ込みはコの字形に近い。雄交尾器  
端に近い突起が角状である。徳之島の個体は全体に太く、点刻もや粗い。

(3) *O. kiuchii* SAWADA 196

T. L : Daisen, Tokushima (大川山?徳島県)

分布： 四国

原記載以後の記録はなく、♂も知られていない。筆者自身も未検であるが、  
は全体が黄褐色なので上記の2種から容易に区別できる。

\* 印 …… 久松定成氏のご厚意により検し得た愛媛大学の標本である。末筆な  
厚く御礼申し上げます。

◎ 新 入 会 員

氏 名 ( 敬 称 略 )

住

所

正 誤 表

第1巻において若干のミスプリントがありましたので、下記のとおり御訂正く  
 さい。

巻号	頁	行	誤	正
Vol. 1	P. 8	中段図		IV.2 3の気温 15℃のところに
No. 1	P. 13	下 1 0	<u>O</u> tylus	<u>c</u> tylus
	P. 16	上 2	<u>O</u> ctoguttata	<u>o</u> ctoguttata
		上 5	<u>P</u> upillata	<u>p</u> upillata
	P. 17	下 1 7	<u>P</u> rolixus	<u>p</u> rolixus
		下 6	アオグロヒラタ	オオヒラタ
		上 7	<u>K</u> urosai	<u>k</u> urosai
	P. 21	図		実線は個体数、点線は種類数
	P. 22	図		” ”
P. 26	上 3	スギヤヒノキ	スギヤヒノキ	
Vol. 1	P. 5	左下図		実線はシジミガムシ、点線はキバネシガムシ
No. 2	P. 15	下 9	フチクマゲン	フチケマゲン

◎ 住所変更のお知らせ

新 住 所



より寄付をいただきました。

厚くお礼申し上げます。

◎ 昭和47年度会費は同封の振替用紙によりお納め下さいますようお願いいたします。

振 替 口 座 番 号            大 阪 3 7 7 5 2

加 入 者 名                大 阪 甲 虫 同 好 会

シベリアの大將軍が日本海をまたいで日本に上陸し、寒さもひましに厳しさを増してきました。岩湧山の灯火に飛来する甲虫の報告も、順調にすゝみ次号ですべて終了することになり、次号からは奈良公園の鹿の糞に集る糞虫類の報告を順次とりあげていく予定です。

今後もこの会誌を充実させ発展させていくために、会員諸氏の研究報告、短報をどしどしお寄せください。

(木村 裕 記)

常任幹事 林 靖彦, 木村 裕, 野村 英世

幹 事 川津 智是, 酒匂 清和, 植田 謙一

小西 洋良, 伊藤 建夫

---

びいとるず Vol. 2, No. 2

昭和46年12月20日 印刷・発行

編 集 者 木村 裕

発 行 者 野村 英世

会 計 監 査 林 靖彦

発 行 所 大阪甲虫同好会  
(大阪市阿倍野区松虫通1-8-10  
野村 英世方)

印 刷 所 尚 文 館 工 房

---

